

支部ソフトテニ新人団体戦：名寄スポセン

女子は念願の優勝

下商・翔雲を破り2戦全勝

11月28日、令和2年度高体連名寄支部新人ソフトテニス大会（団体の部）・兼北海道高等学校新人ソフトテニス選手権大会名寄支部予選会（団体の部）が名寄市スポーツセンターで行われた。女子の部には、名寄高校、下川商業高校、士別翔雲高校の3校が参加。名寄高校からは、宮嶋香林主将（2A）・工藤あいりさん（1A）ペア、平田遙さん（2B）・芦田麻尋さん（1B）ペア、齊藤ひなのさん（1C）・石田ななみさん（1C）ペアの3ペアが出場した。

名高は下川商業との試合を3-0でストレート勝利、翔雲高校とは2-1で勝ちを収め、見事優勝を果たした。

名高の初戦は下川商業戦。第1試合は平田・芦田ペアが大西・河野ペアと対戦。名高のサービスから試合が始まり、芦田さんのサービスエースで2点を連取すると、相手のレシーブミス、芦田さんのストレートへの強打が決まり第1ゲームを4-1で先取する。第2ゲームはデ



コースを狙いストロークを打つ宮嶋香林主将

ュースにもつれこんだが、芦田さんの強いストロークや平田さんの鋭いスマッシュで5-



優勝した名高女子チーム（左より）芦田さん、平田さん、齊藤さん、石田さん、宮嶋さん、工藤さん

3で連取。第3ゲームも勢いに乗り4-2で奪う。第4ゲームはミスが重なり1-4で落とすが、第5ゲームは芦田さんのコーナーを狙ったレシーブなどで得点し、4-1で奪取。ゲームカウント4-2で第1試合に勝利した。

第2試合は齊藤・石田ペアが佐川・山田ペアと対戦。第1ゲームは相手に先制されるも、その後相手のミスを誘い、4連続得点で4-2で奪う。第2ゲームは石田さんのネットプレーと齊藤さんの的確なストロークで流れをつかみ、4-2で連取。第3ゲームも石田さんのボレー、齊藤さんのサービスエースで相手を圧倒し、このゲームも4-2で取った。第4ゲームは2点の先制点を挙げるが、ミスが重なりデュースに突入。その後、相手に流れを奪われ4-6でゲームを落とし、ゲームカウント3-1となる。続く第5・第6ゲームも相手が主導権を握り0-4、1-4で連取される。ゲームカウント3-3で迎えたファイナルゲーム。1点を先制するが、相手の勢いに押され3連続失点。それでも相手のミ

スを誘い同点に持ち込むが、一進一退の攻防が続くデュースへ突入する。その後も緊迫した熱戦が続くが、攻め続けた名高ペアが一步



力強いスマッシュを決める平田遙さん

（裏面へ続く）

名寄高新聞

新人戦特集

北海道名寄高等学校新聞局

2021. 1. 22

発行責任者 岡田 菜月

第2017号(20-48)



力を込めストロークを打つ齊藤ひなのさん

リードし10-8でファイナルゲームを奪う。その結果、ゲームカウント4-3で熱戦を制し、この時点で団体戦初戦の勝利を決めた。

第3試合は宮嶋・工藤ペアが高屋敷・小川ペアと対戦。サーブエースを決め、安定したプレーで相手のミス誘いを、4-1で第1ゲームを先取。第2ゲームも4-2と連取する。第3ゲームはネットのミスが重なってデュースとなり、粘る相手に4-6で奪われる。第4ゲームは名高ペアが勢いを取り戻して4-2で奪取。第5ゲームも2点を先制されるが、着実に得点を重ねてデュースに持ち込み、最後は宮嶋さんのコーナーを突くショットが決まり6-4で制す。その結果、ゲームカウント4-1で勝利し、3戦全勝で下川商業を一蹴した。

団体2戦目は土別翔雲戦。第1試合は宮嶋・工藤ペアが青木・白岩ペアと対戦。第1ゲームから激しい攻防が展開されデュースに入るが、鋭角なサーブエースを決めるなどして8-6で先取。第2ゲームもデュースとなるが、ボレーミスなどで3-5で落とす。しかし、第3ゲームで流れを取り戻し、的確なショットで圧倒。4-2で奪い再びゲームをリードする。さらに第4ゲームも4-0と勢いそのままに連取。第5ゲームでも3点を連取

しマッチポイントを握るが、粘りを見せた翔雲ペアに5連続得点を決められ、ゲームを奪われる。それでも続く第6ゲームでは、宮嶋さんの強打などで連続得点し、6-4で奪取。ゲームカウント4-2で勝利した。

第2試合は芦田・平田ペアが芳野・森竹ペアと対戦。序盤は相手の強打に押され、第1・第2ゲームをともに2-4で落とす。しかし、第3ゲームで巻き返しデュースの末に、逆転で7-5と奪い返す。第4ゲームは

攻めに転じ4-1と圧倒し、ゲームカウント2-2とする。その後、第5ゲームは0-3からデュースに持ち込む粘りを見せるが、4-6で奪われる。第6ゲームでは芦田さんのストレートへの強打が決まるなど、積極的に攻めて5-3でデュースを制する。ファイナルゲームは芦田さんのサーブエースで先制



コースにストロークを決め喜ぶ芦田麻尋さん

するが、相手のサーブも決まり、両者譲らぬ白熱の展開となる。しかし、相手のストロークが際どいコースに決まり、ロブで左右に振られるなど、流れを握られ3-7でゲームを落とし、惜しくもゲームカウント3-4で敗れた。

第3試合は、翔雲高校が棄権したため、名高の不戦勝となり、2勝1敗で名高が土別翔



宮嶋・工藤ペアの得点に喜ぶ名高ベンチ

雲に勝利した。

その結果、名高が見事2戦全勝で優勝を飾り、全道大会への出場権を獲得した。

3ペアとも実力が向上 宮嶋 香林 主将

今回はインドアでの初試合だったため、屋内でできる体作りを中心に練習していた。

夏の大会より3ペアとも実力が上がっていたことが印象的だった。さらに、下川商業との3戦を全勝できたことも嬉しい。

試合中、ミスをしたときもネガティブな発言はしないようにし、声をかけ合うこと

ができていた。ただ、ゲームをリードしていても相手を抑えられない場面もあり、切り替えられるメンタルも必要だと感じた。

個人戦になると試合数が多くなるので、これからも体力作りを中心に練習したい。特に全道に繋がる大会では、名高で1、2、3位を取ることが目標。

支え合い勝ち切った 市川 瑞葵 監督

今大会には優勝を目標に臨んだ。

大会前は今までの大会のビデオを見て、自分の課題を見つけて取り組んでいた。チームとしての力が問われる団体戦で、みんなで勝つにはどうしたらいいかを考え、普段から周りを気にかけて声かけをするなど、コミュニケーションを意識していた。

試合の序盤は緊張した様子で、苦戦する場面もあったが、ベンチからも声をかけ、支え合うことでチームとして勝ち切ることができた。

夏の全道では、周りとの実力の差を痛感していた。これからは、その悔しさをバネに己の技術を磨いていってほしい。